

[036] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10234>

出版情報：語文研究. 36, 1974-02-28. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

執筆者紹介

石川八朗
石井大
工藤重矩
南里みち子
瓜生清子
板坂耀子

九州工業大学助教授
山口大学文学部助教授
九州大学大学院博士課程
九州大学大学院修士課程
九州大学大学院博士課程
同

編集後記

すでに会員の皆さんご存知の通り、名誉教授福田良輔先生が、旧臘十二月一日ご病気の為逝去された。先生は終戦直後に九大に御來任、以来二十余年間にわたって、研究室の指導運営に献身された。その学問および教育のきびしさと、脱俗無垢のお人からは、今も語りぐさとなっている。ことに語文研究にとつては、先生は、文字通りの生みの親であった。万般を思うにつけ、先生亡き今、一つの時代が終った、との感はひとしお深いのである。謹んで先生の御冥福を御祈り申し上げる。なお次号は、福田先生追悼特別号となる予定。なお、助手の添田氏は九月末日を以て山口大学文学部へ栄転、後任は安田博子君である。よろしく御援助を願う。

本号の論文も、若い方々が主である。云々でももの事だが、世間で時折「九大の学風」と呼ぶのを耳にもするが、たしかにそういうものがかかなり以前から見えてきているように思われる。世評など気にかける必要は毛頭ないけれど、よかれあしかれ、それも三〇号を越えたこの雑誌の年輪の力というものであろうか。

(今井 記)